

「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラム



を活用した学習の事例（指導案等）



概 要	
学年・教科・単元等	小学校 6 年生・国語・「意見文を書こう」
活用方法	単元に合わせて、4つの学習過程を再編成し取り組んでいる。「まとめあげる」場面で児童が課題解決できるような授業の流れを構築している。
成果等	研究主題にある育成したい資質・能力に合わせ、指導の手立が示されている。そのため、4つの学習過程で何をどのように取り組めばよいか児童自ら考え学ぶ姿が見られた。

第 6 学年 国語科学習指導案

1. 単元名 6年○組「天声人語」を発行しよう
(教材名 教育出版 「意見文を書こう」)

2. 単元について

(1) 本単元で行う言語活動
本単元では、意見文を書き、互いに読み合う活動を行う。これらの活動をとおして、小学校指導要領・国語科〔第5学年及び第6学年の内容〕における、以下の指導事項をおさえていく。

【B 書くこと】

- イ 自分の考えを明確に表現するために、文章全体の構成の効果を考えること。
- ウ 事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

- イ 言葉の特徴やきまりに関する事項
- (カ) 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。
- (キ) 文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること。

〈単元の系統〉

5年

世界遺産 白神山
地からの提言
意見文を書こう



6年

意見文を書こう

← 1年生に向けて物
語を書こう

← 随筆を書こう

← 学校案内パンフレ
ットを書こう

(本単元で身に付けたい力)

児童はこれまでに、パンフレットを作ったり、随筆を書いたりしてきた。国語科の授業だけでなく、日頃から800字程度の作文を書き、日々の記録として書き留めている。そのため、原稿用紙1枚程度の作文に対しては、それほど苦手意識をもってはいない。しかし、自分の考えを書くこと、文章の構成を考え、比較的長い文章を書くことは、まだまだ経験が不足している。

③「天声人語」の多読

ほとんどの児童が、新聞を讀むことに慣れている。記事の中には、まだ習っていない漢字や分らない言葉が、600字程度の文章で、比較的読みやすい文章が多い。児童が、新聞を購読している。家庭は減少しつつあるが、今の学級で、天声人語の多読に取り組むことは、朝読書の時間に多読の時間を取っていくようにする。

④「天声人語」の発行

6年〇組の「天声人語」の発行を目標にする。書いたから発表するという過程よりも、何のために書くか誰のために書くかを意識することを大切にしたい。コラムは、ある課題をいろいろな切り口から見て、自分の意見を根拠をもとに書いている評論文である。児童にとって、評論文は少し難しい。しかし、自分なりに考えて説得力のある文を書き、コラムとして発信することは、相手意識や目的意識をもち、書く意欲を持続させる手立てになると考える。

3. 単元の目標

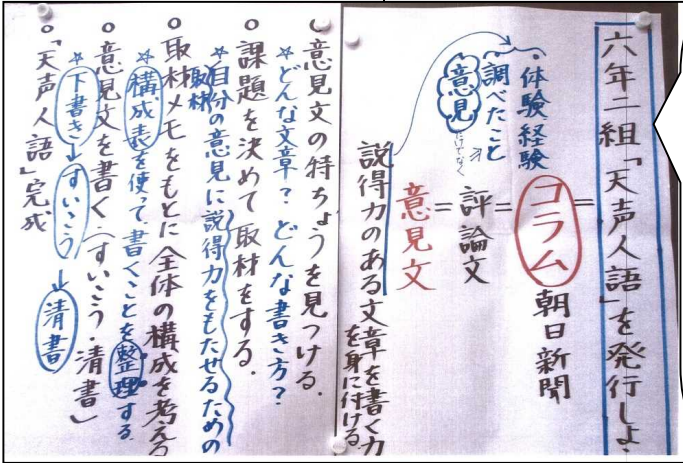
- 言葉の使い方に関心をもち、進んで意見文を書いたり、友達の意見文を讀んで感想を伝えたりしている。【関心・意欲・態度】
- 自分の意見を明確にし、根拠を示しながら、説得力のある文を書くことができる。【書くこと】
- 意見文の特徴をとらえ、文章の構成や表現の効果について確かめたり工夫したりしながら、自分の考えを書くことができる。【書くこと】

4. 評価規準

- 【関心・意欲・態度】
 - ・言葉の使い方に関心をもち、効果的な表現を使って書こうとしている。
 - ・意見文の特徴をとらえ、進んで書こうとしている。
 - ・友達の意見文を讀み、良いところや感想を伝えようとしている。
- 【書くこと】
 - ・書きたいことを明確にし、情報を集めることができる。
 - ・引用したり、具体例を示したりしながら、説得力のある文を書くことができる。
 - ・文章の構成を考えたり、表現の効果について工夫したりして自分の考えを書くことができる。

5. 指導計画 { 8時間 + 朝読書 (天声人語の多読) }

	時	学習内容	手立て (○) 評価 (※)
第一次 見出す	1	<ul style="list-style-type: none"> ・「天声人語」を讀み、視写する。 ・内容を理解し、随筆と異なる点を話し合う。 ・学級で「天声人語」を作成し、発行するという目標を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「天声人語」はコラムということをおさえる。 ○指導者の見本を提示し、見通しをもたせる。 ※言葉の使い方に関心を持っている。



授業の実際 ①
「天声人語」の特徴を捉えて、児童が意見文を書くときの手がかりにさせている。

2 本時

- ・教材の意見文を読み、その特徴について話し合う。
- 教材の意見文を読み、コラムと似ているところを確認する。
- 序論・本論・結論の構成に気付かせる。
- ※意見文の特徴に気付いている。

The diagram shows an opinion article structure. At the top, it is divided into three main sections: '結論' (Conclusion) on the left, '序論' (Introduction) on the right, and '反論意見に対する反論' (Counter-argument to the counter-argument) in the center. The text discusses food waste reduction, mentioning '減らそう食べ物のごみ' (Reduce food waste) and '筒条書文' (Tsunohara Shomon). The text includes phrases like 'みなさんは、家庭から出ている食べ物のごみの量を知っていますか。テレビのニュースによると、毎年、家庭から二百から四百万トンもの食べ物が、まだ食べられるのに捨てられているというのです。私は、この事実にとってもおどろきました。食べ物のむだな消費により、食べ物の価格が上がり、貧しい人たちに食べ物が行きわたらないという問題や、世界の人口が増え続けていることを考えると、今すぐにも、食べ物のごみは減らさなければなりません。' (Do you know how much food waste is thrown away from households? According to the news, every year, 200 to 400 million tons of food is thrown away, even though it is still edible. I was shocked by this fact. Due to unnecessary consumption of food, food prices are rising, and the poor are having trouble getting food. Considering that the world's population is increasing rapidly, we must reduce food waste as soon as possible.)

授業の実際②
提示した意見文について「序論・本論・結論」の構成を捉えさせている

第二次

自分で取り組む

まとめあげる

広げ深める

3 4

- ・身近なことから課題を見つけ、自分の意見を明確にする。
- ・取材をする。(意見の根拠になる情報を集める)

5

- ・構成表の作り方を理解し作成する。
- ・情報を整理し、序論・本論・結論で書く内容をまとめる。

6

- ・構成表をもとに意見文を書く。
- ・説得力のある文章になっているかを確認する。

7

- ・推敲し、清書する。

8

- ・「天声人語」として発行し、互いに読み合い、家族にも紹介する。
- ・交流した友達には、感想を書いて渡す。

○情報を集める時には、考えたきっかけ、自分の経験、本や資料からわかったことの観点を意識させる。

※書きたいことを明確にし、情報を集めることができる。

○構成表にまとめるときは、簡単な文章で書くように伝える。

※構成表を作成することができる。

○問いかけの文や反対意見に対する反論の文を取り入れて書くように伝える。

※構成表をもとに意見文を書くことができる。

※効果的な表現方法を使って工夫して文を書くことができる。

○文のつながりや文字の間違いを直すようにする。

※文章の構成を考えたり、表現の効果について工夫したりして自分の考えを書くことができる。

○意見文の特徴を捉えて文章が書けているかを意識しながら友達に文章を読み、感想を伝えるようにする。

※友達の見文を読み、良いところや感想を伝えようとしている。

6. 本時の指導 (2 / 8)

(1) 目標

- 進んで意見文の特徴を見つけたり、友達と話し合ったりしている。【関心・意欲・態度】
- 言葉の使い方や文章の構成に着目しながら、意見文の特徴に気付くことができる。【書くこと】

(2) 本時

時配		学習活動と内容	支援と留意点 (○) 評価 (※)	
2	見出す	1 学習の振り返りをする。 「見出す」場面 関連する資料が掲示され「天声人語の捉えや特徴」を学級全体で確認していたため、授業内でも意見が反映されていた。	○本時で扱う教材の意見文がコラムと似ていることを確認する。 例文等を活用し、根拠を基に話し合わせることで、意見文の特徴「構成」「問いかけの文」について確認させていた。	意見文
3		2 学習のめあてを確認する。 意見文にはどんな特徴があるだろうか。 課題解決型であり、学習のめあてが明確になり、解決の見通しがもちやすいので、児童が主体的に学べる。	○序論・本論・結論の構成を確認する。	
8	自分で取り組む	3 意見文を読み、気付いたことをまとめる。 「自分で取り組む」場面 文章を書く学習の積み重ねがある。自分たちが書いたものを冊子にまとめた作品集を活用し、考えている児童が見られた。 気付いたことをしっかりとメモに残す児童が多かった。	○普段書いている作文との違いを考えさせるために、今まで書いたことがないような書き方に目を向けさせるようにする。	X チャートの ワークシート
		(予想される気付き) ・言葉に関する気付き 「確かに～」 「このように～」 「しかし～」 ・文に関する気付き 引用の文 問いかけの文 ・文章の構成に関する気付き 問いかけの文で始まって終わりも問いかけになっている。	※進んで意見文の特徴を見つけたり、友達と話し合ったりしている。【関心・意欲・態度】 ※言葉の使い方や文章の構成に着目しながら、意見文の特徴に気付くことができる。【書くこと】	
7 15	広げ深める	4 グループで話し合う。 ・自分の考えを伝え、グループの中で分類作業を行い、共有する。	○付箋紙に気付いたことを書き、Xチャート上で分類させる。	
		5 全体で話し合う。 ・グループでつけた項目をもとに共有する。 (予想される項目) 言葉 (接続語) 文章 引用 自分の体験 文末表現	○分類した後、項目をつけさせる。 チャートの活用の仕方が理解されている。そのため、比較検討する場面で活用させることで、グループでの話し合いが活性化された。	

	広げ深める	<p>「広げ深める」場面 話し合いの中心となる児童がいて、話し合う目的が共有されていた、また、グループでの話し合いや学級での共有で身に付けさせたい知識や技能について、ほとんどが児童から発言されていた。</p>	<p>※進んで意見文の特徴を見つけて、友達と話し合ったりしている。【関心・意欲・態度】 ○言葉の使い方や問いかけの文に予想を付けて、反論の文を反論の文を取って気付かせるようにする。</p> <p>教師が見本を示すとともに、今まで書いてきた作文との比較を促した。</p>
7	まとめあげる	<p>6. 学習のまとめをする。</p> <p>意見文の特徴 ①接続語の工夫「確かに」「このように」「しかし」 ②問いかけの文を入れる。 ③反対意見を予想して反論の文を入れる。 ④序論・本論・結論 序論と結論に自分の意見を書く。</p> <p>「まとめあげる」場面 ～更なる授業改善のために～ 「広げ深める」場面で様々な意見が出されていたので、まとめも自分の言葉で書けるとよい。時間の配分も含め、書くための手立てが、今後の課題である。また「天声人語」には意見文の形式と随筆の形式が混在している場合がある。教師が吟味して、教材の取り扱いに配慮する必要がある。</p>	
3		7. 次時の予告をする。	○本論には何が書いてあるかを確認し、取材活動が必要であることを気付かせる。

生活がゴミに支配されていく
六年 組

みなさんは、「海洋プラスチック問題」を知っていますか。近年、この「海洋プラスチック問題」が地球の課題点となっています。インターネットで調べたところ、二五千年には魚よりゴミが多くなるといわれています。私はこの事実にとってもおどろきました。海のゴミにより、人の体内にマイクロプラスチックが取りこまれるという問題などを考えると、今すぐにでも海のゴミを減らさなければいけません。

なぜ、こんなにも海のゴミが増えてしまうのでしょうか。インターネットのサイトによると、海のゴミが増える理由には、

- ・町などでのポイ捨て
- ・海、川などへのポイ捨て

などポイ捨てが主な原因とのことでした。また、プラスチックなどのゴミは、自然分解に時間がかかるなどの理由で、海のゴミが増えてしまっているようです。

では、どうすれば海のゴミは減らせるのでしょうか。

私は、海や川へのポイ捨てはしないのはもちろんのこと、町などへのポイ捨てをやめることも大切だと思います。

最近では町などにもゴミが目立っています。

確かに、町などへのポイ捨ては関係ないと思う人もいるかもしれませんが、しかし、町などへ捨てられたゴミは風に飛ばされどぶへ、そこから川↓海というように、最終的に海へとたどり着いてしまうのです。

また、プラスチックの使用量を減らすことも大切です。

私の家では、なるべく安い物にマイバックを持っていくようにしています。マイバックを利用すれば、プラスチックの使用量を減らすことができます。

このように、一人一人の小さな心がけが、大切なのではないのでしょうか。

本単元で作成された児童の作品